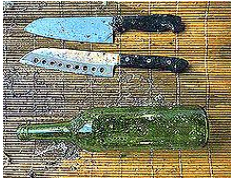


1. マナー違反のごみの出しと、それによるパイプラインの停止

マナー違反ごみ投棄で 2024 年度は下記の発生状況がありました。2025 年度もすでに 2 件発生しています。回復のために、無駄な多大なる税金を浪費し、このままでは条例で定められたパイプラインの期限まで維持することは困難な状態となってきました。

発生日	発生場所	マナー違反	写真
4 月	潮見町8	段ボール	
11 月 19 日	若葉町6	大量の紙資源(雑誌)	
2 月 14 日	高浜町 2 番	廃材・雑誌など)が投棄	
2 月 18 日	若葉町 6 番	大量の教科書および布団	
3 月 7 日	潮見町32	大量のダンボール 投入口閉鎖	
3 月 13 日	若葉町5・6	フライパン・金具 パイプライン停止	
3 月 13 日	若葉町5・6	包丁・ビン パイプライン停止	
3 月 21 日	若葉町7-2・3	不明 パイプライン停止 臨時収集開始 (3 月 24 日～)	

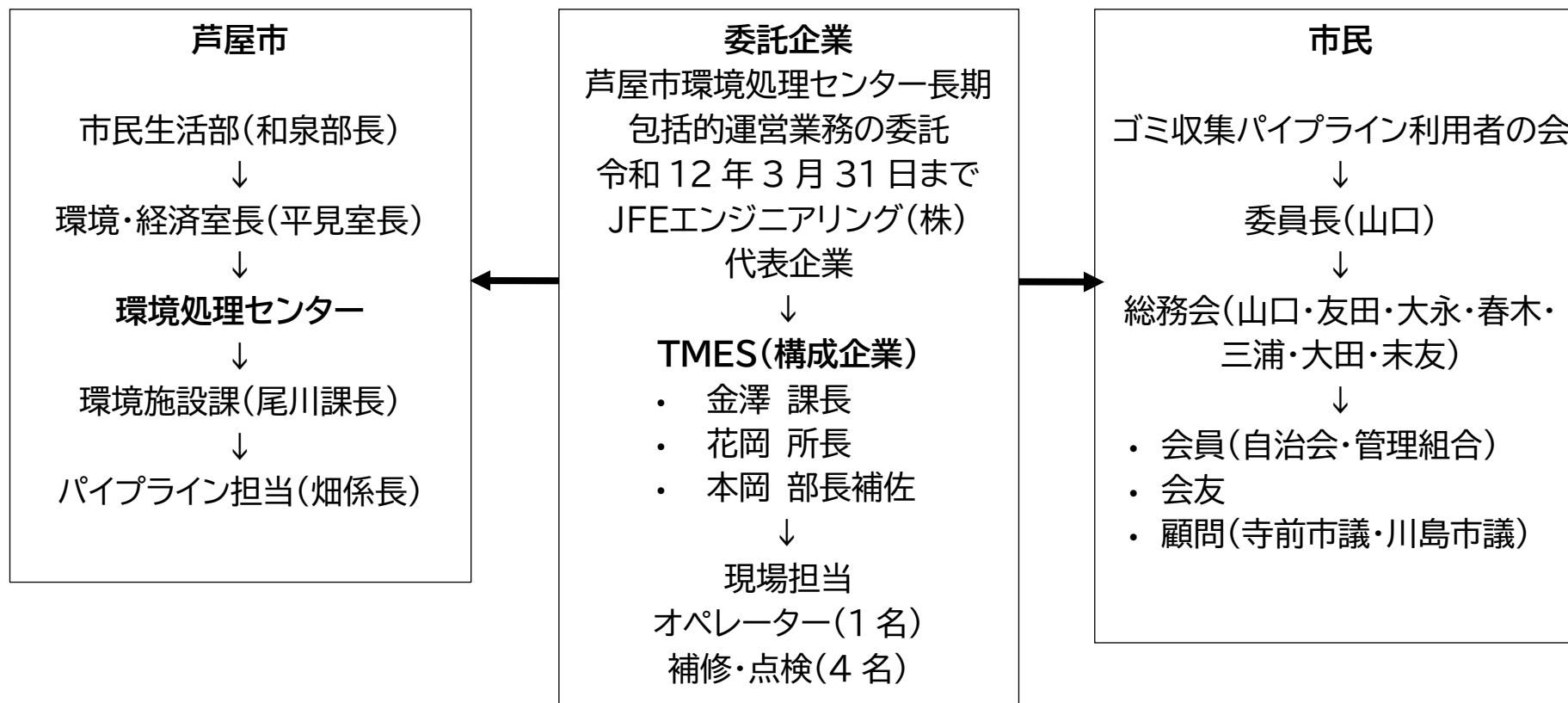
2025 年度

- 高浜町「2(5月6日)
写真はありません
- 若葉町7(2025年4月14日 夕方)

内容	写真
若葉町7 投入口 08079 から 取り出したごみの写真 (寝具、衣類やリュック サック)	
若葉町7 投入口 08079 から 取り出したごみの写真 (教科書や衣類)	

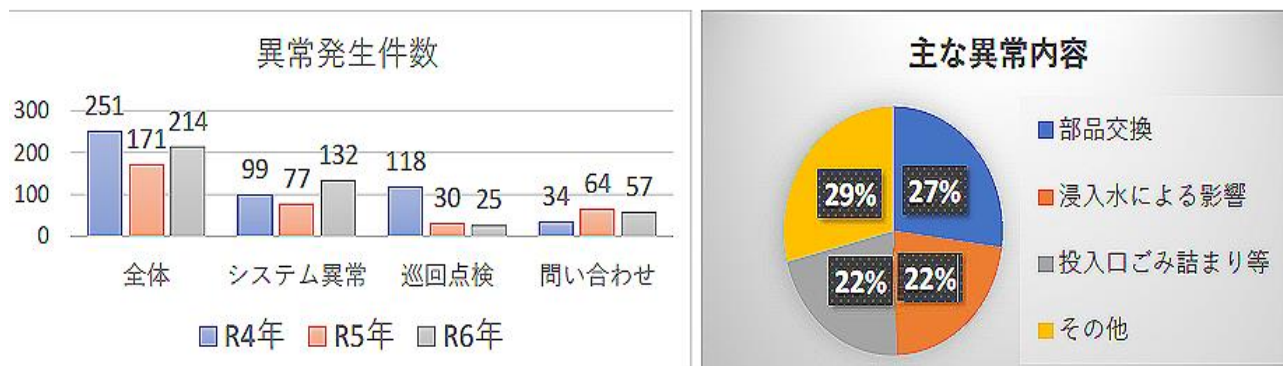
2. 2024 年度パイプライン運転報告(障害レポート)

● パイプラインを維持・管理するための組織



● TMES—パイプライン運転(トラブル)について

・昨年度と比較して異常発生件数は増加しており、原因は設備の劣化による部品交換が増えたこと 及び 輸送管への浸入水の影響が大きいことによります。



主なポイント

1. 部品交換が 58 件で前年度と比較すると大幅に増加しております。(前年度 10 件)増加の原因は経年劣化によるもので、UPS バッテリーの交換 16 件、V ベルト交換 8 件、電磁弁交換 6 件等となります。
2. 浸入水による影響は 48 件で収集運転停止の一因となっております。
3. 投入口でのごみ詰まりも増加し(46 件)、詰まりの原因となるごみの投入が見られました。(前年度 35 件)
4. バケット下ごみ詰まりは 8 件で、前年度と比較して若干減っており、利用者様の投入方法へのご協力に感謝申し上げます。
5. 鍵穴の位置ズレの原因は、利用者様の投入口用鍵の劣化によるものと考えられます。
6. R6 年度に投入口・点検口・輸送管内より取り出したごみは、下記のとおりで、収集運転停止となる原因になっております。カーナビ、体重計、掃除機、ドライヤー、包丁、ビン、雑誌類、寝具類、衣類、木材、ブルーシート、段ボール等、多岐に渡っております。
7. 鍵穴の位置が正常ではない事への対応は 13 件で、該当の投入口に啓発用のシールを貼付けいたしました。(前年度 鍵穴位置ズレ 9 件)

3. TMES 2024 年度の活動報告

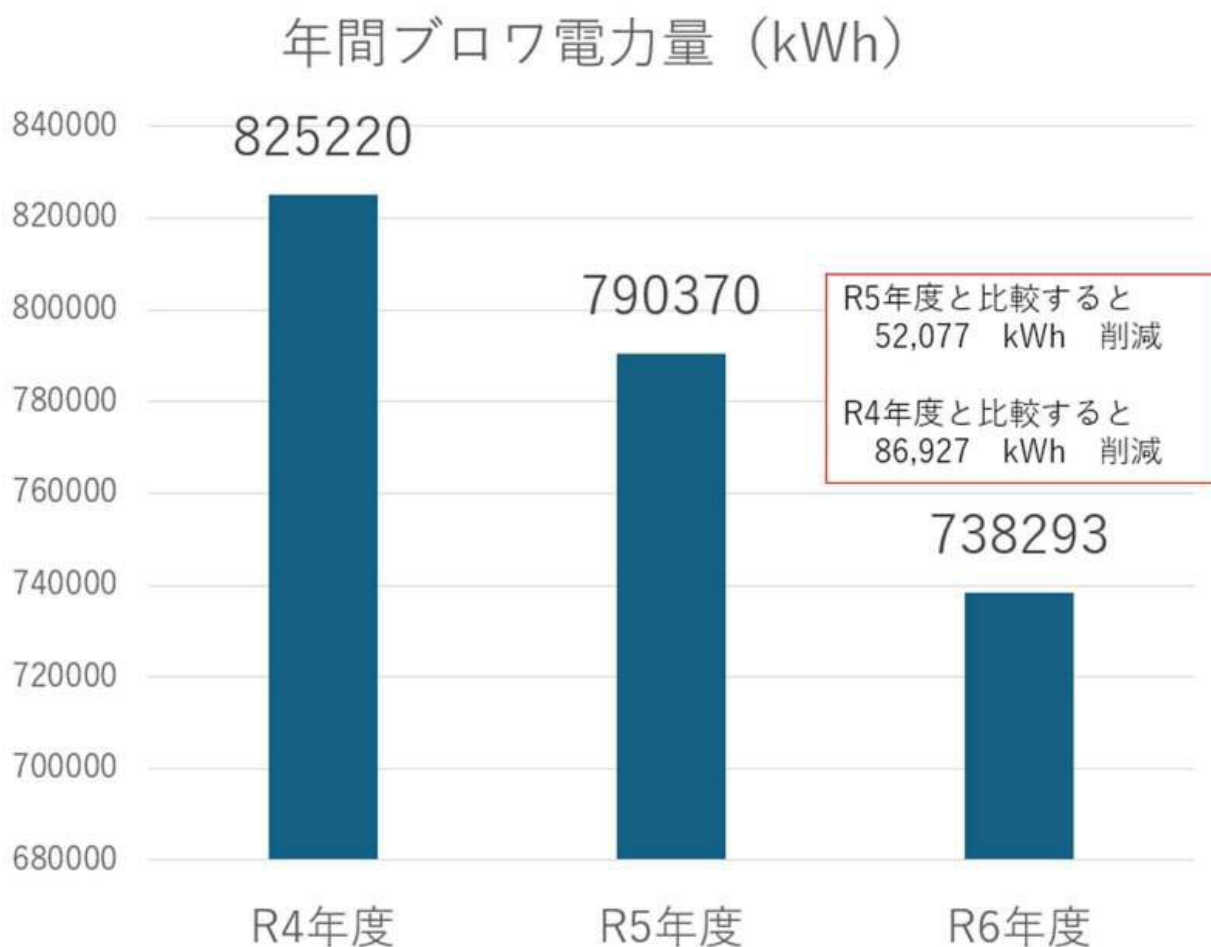
1. システム異常について

システム異常は部品劣化や輸送管への浸入水による影響で増えておりますので、輸送管については、カメラ調査の結果を基に置換・補修等をご提案いたします。問い合わせ件数は若干減少しており、今後も巡回点検時に早期に部品交換を行う等により、利用者様のご不便となる問い合わせ件数を減らすことに注力いたします。今後も経年劣化等による不具合が増えると思われますが、件数を減らせるように努めました。

2. 電気使用量の削減について

電気使用量の削減について、令和4年度と令和6年度を比較すると、27kWh(約10%)削減となりました。皆様にご協力いただき、心より感謝申し上げます。尚、15%削減を目標にいたしましたが、異常発生による運転対応等により目標に届きませんでした。令和7年度は、目標を達成できるように取り組んでまいります。

※令和5年度は定時満杯運転や輸送管置換工事による長期間の運転停止がありましたので、令和4年度の電気使用量と比較いたしました。



4. 2024 年度 利用者起因に関するトラブル分析と対策案

2024 年度に発生したパイプライン施設における運転トラブルのうち、住民による利用マナー違反が原因とされるケースについて整理し、今後の対応方針と対策を提案するものです。

1. トラブルの傾向と内容(主に住民起因)

発生件数:計 26 件(すべて住民起因)

主な原因別内訳:

- 「カギが回らない」:13 件(50%)
- 「バケットが閉まらない・開かない」:10 件(38%)
- 「排出弁・スクリュウ詰まり」:3 件(12%)

2. 具体的な問題点と事例

(1) カギが回らない(13 件)

主な原因:ごみ投入後にカギを戻さず放置(常時”開”の状態)

対応:合カギによる再設定作業(1 件あたり 5 10 分・500 円相当)

(2) バケットの閉まらない・詰まり(10 件)

主な原因:

- 指定ごみ袋以外の使用
- 発泡スチロール・段ボール・プラスチック製品などの投入

対応:詰まり除去、清掃(1 件あたり 10 110 分・平均作業費 1,000～5,500 円)

(3) 地下部のごみ詰まり(3 件)

教科書、ロール紙、段ボール等の不適切投入

対応:吸気弁・排出弁・スクリュウ詰まりの清掃、運転停止期間あり

3. 今後の対策案

(1) 利用マナー啓発の強化(住民向け)

投入口付近に図解付き注意ポスターを設置

「投入後はカギを戻す」表示の常設

マナー違反実例の掲示によるナッジ的注意喚起

外国人住民向けにやさしい日本語・多言語対応案内の作成

(2) 利用者の会での対応

問題箇所の定期的報告と改善状況の共有

啓発ポスターや文書の設置予算計上

4. 結論

住民起因の問題は、パイプラインの利用方法に起因しており、適切な利用啓発と設備上の補助的対策によって多くのトラブルは防止可能だと考えています。

2024 年度 利用者起因トラブルデータ

NO	月	時間	箇所 (センター/ 投入口番号)	町名	機器名 (小分 類)	状態	レベル	トラブル確認	作業内容	作業人 数 (人)	作業 時間 (分)	工数 (人・ 分)	労務費 (円)	住民起 因 (◎で表 示)	システム 異常/ 巡回・定 期点検/ 問い合 わせ対	備考
4	5	11:20	5049	高浜町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
7	6	11:35	5049	高浜町	カギ	回らない	B	貯留槽にごみ詰り・異常	運転再開にてごみ搬送	2	60	120	6,000	◎	問い合わせ対応	貯留槽にごみ増積
19	2	9:55	5049	高浜町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
20	2	5:38	5079	高浜町	スクリュウ	ごみ詰り	C	貯留槽にごみ詰り・異常	ごみ除去・清掃	4	150	600	30,000	◎	システム異常	バケット下にごみ有り
25	3	5:56	5039	高浜町	排出機弁	閉異常	B	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	2	60	120	6,000	◎	システム異常	教科書、ノート
26	3	15:40	4019	高浜町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	1	5	5	250	◎	問い合わせ対応	
5	5	12:45	9029	若葉町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
11	8	13:00	8029	若葉町	バケット	閉まらない	B	バケット下にごみ詰り	ごみ除去・清掃	2	10	20	1,000	◎	問い合わせ対応	バケット下にごみ有り
12	8	10:51	8029	若葉町	バケット	閉まらない	B	貯留槽にごみ詰り・異常	ごみ除去・清掃	2	10	20	1,000	◎	問い合わせ対応	バケット下にごみ有り
16	10	15:57	8059	若葉町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
17	12		8059	若葉町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
21	2	5:26	8069	若葉町	排出機弁	閉異常	B	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	2	60	120	6,000	◎	システム異常	ゴミの処理が正常にできていない
2	4	9:05	12031	潮見町	バケット	閉まらない	B	バケット下にごみ詰り	ごみ除去・清掃	2	10	20	1,000	◎	問い合わせ対応	バケット下にごみ有り
8	7	13:45	12143	潮見町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
10	7	10:50	12061	潮見町	バケット	閉まらない	B	貯留槽にごみ詰り・異常	ごみ除去・清掃	2	10	20	1,000	◎	問い合わせ対応	バケット下にごみ有り
18	1	5:46	12071	潮見町	吸気弁	閉異常	B	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	2	20	40	2,000	◎	システム異常	原因:段ボール
24	3	10:40	12143	潮見町	バケット	閉まらない	B	貯留槽にごみ詰り・異常	ごみ除去・清掃	1	110	110	5,500	◎	問い合わせ対応	段ボール
9	7	9:00	6021	浜風町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
1	4	16:25	30128	陽光町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	10	20	1,000	◎	問い合わせ対応	
13	9	16:30	30138	陽光町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
14	9	9:00	33128	陽光町	バケット	閉まらない	B	その他	ごみ除去・清掃	2	15	30	1,500	◎	問い合わせ対応	バケット下にごみ有り
22	2	14:10	30118	陽光町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	1	5	5	250	◎	問い合わせ対応	
23	2	10:20	30118	陽光町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	1	5	5	250	◎	問い合わせ対応	
3	5	9:50	11031	緑町	カギ	回らない	B	カギ穴"開"の状態	合カギで正作動にもどす	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
6	6	11:10	11061	緑町	カギ	回らない	B	バケット下にごみ詰り	ごみ除去・清掃	2	10	20	1,000	◎	問い合わせ対応	バケット下にごみ有り
15	10	9:20	11061	緑町	バケット	開かない	B	バケット下にごみ詰り	ごみ除去・清掃	2	15	30	1,500	◎	問い合わせ対応	バケット下にごみ有り

5. 芦屋市

1 代替収集の検討(フェーズ2)

令和 7 年度となり、2年間のスケジュールにおいてはステップ2から5までとなります。内容は、「情報収集の分析・整理、実証実験に向けた代替案の作成など」となります。

これらの内容を引き続き、複数の代替案の作成を行います。今年度7月頃よりファシリテーターを導入し、公平中立な立場及び視点から差配をいただき、代替案の作成などを推進してまいります。芦屋市廃棄物運搬用パイプライン施設の運用期間を定める条例にもございますが戸建てやマンション等の住宅形態に応じて、検討する必要もございますので既に使用されているごみ収集方法(ごみボックスなど)も必要に応じて、話し合っていきます。

今年度行う「実証実験に向けた代替案の作成」はこれまで以上に意見集約・合意形成に時間がかかりますが、適宜、利用者の会とスケジュール管理を行いながら、進めていきます。

また、必要に応じて、環境施設課だけでなく、道路・公園課や収集事業課など公的機関の意見をワーキンググループ等で反映するようにしていきます。代替施設の維持管理等の運用について、利用される市民の皆さんで行うことになります。来年度実施の実証実験につながる一年にしていきます。

2 運転方法の変更に伴う CO2 削減

昨年度に引き続き、パイプラインの利用者の利便性と CO2削減効果のバランスも見ながら、運転方法の変更に伴う効果(メリット・デメリット)等を TMES と協力して、ワーキンググループ等で話し合っていきたいと思えます。

TMES

1, 安定稼働への貢献

巡回点検で不具合対応を行い、異常発生を未然に防ぎ、システム異常や問い合わせを減らせるように努め、安定稼働に貢献いたします。

2, 電気使用量の削減

令和 6 年度同様に環境への取り組みとして CO 排出量の削減として、電気使用量を減ら減らせるよう、効率的な運転を行ってまいります。

令和7年度は令和4年度から 15%の電気使用量削減を目標にして、今後も皆様のご協力のもと、社会貢献に取り組んでまいります。

6. ゴミ収集パイプライン利用者の会 2025年度活動目標

●4つの活動

1. 継続的な情報収集

私たちは、情報を力とする民主主義の原則に則り、無関心が最大の問題と認識しています。芦屋市だけでなく、他の自治体やパイプライン施設を訪れ、第一線で得られる情報を積極的に収集します。この持続的情報収集活動を通じ、私たちは現状の理解を深め、適切な行動を取ることができます。

2. パイプライン廃止に伴う代替案作成やごみ問題に関する解決策の提案

収集した情報を、「ゴミ収集パイプライン利用者の会」の会員、パイプラインの利用者、市議会の議員などに提供します。さらに、私たちの経験と知識を活かし、パイプライン廃止に伴う代替案作成やごみ問題に関する解決策を提案します。

3. 啓発・啓蒙及び注意喚起活動

不法投棄はパイプラインの劣化、詰まり、無駄なコストの増加、そして寿命の短縮を招きます。これを防ぐため、芦屋浜や南芦屋に住むパイプライン利用者を対象に、正しい使い方を啓発します。説明会やチラシ配布など多様な方法を用いて、パイプラインの詰まりを「ゼロ」にすることを目指します。

4. 新しい街づくりの提案

市民と行政が適切な役割を果たし、パートナーシップを築くことが必要です。私たちは、積極的な参加を基盤に協働による街づくりを提案し、実現を目指します。市民が主体となった新しい街づくりのモデルを築き上げます。

・ 具体的目標(2025 年度)

1. 利用者が原因のパイプライン停止をゼロに
2. 利用者の会内で情報を迅速に共有
3. 芦屋市・ファシリテーターとともに代替案を深掘り
4. 省エネ運転とごみ減量で基準年(平成 18 年度～平成 25 年度の平均値)対比 20%以上の CO₂削減を実行

最終ゴール 条例で定められた使用期限までパイプラインを安全に維持しつつ、市民主体の街づくりモデルを完成させる。

7. 今後2 年間のスケジュール

この2 年間のスケジュールは、ファシリテーターの専門的支援を活用しながら、芦屋市と利用者の会が協力して新しいごみ収集システムの合意形成と実現を目指すものです。

ステップ	期間	活動名
1	2025 年 1 月～3 月	●ファシリテーター導入計画の策定 導入目的を明確化し、必要なスキルや役割を定義します。芦屋市と利用者の会が連携して基盤を整備する重要なステップです。
2	2025 年 4 月～6 月	●入札準備とファシリテーター選定 公平かつ効果的な選定プロセスを実現するため、入札要件を整理し、最適な候補者を選出します。
3	2025 年 7 月～8 月	●プロジェクトキックオフと初期活動開始 ファシリテーターと関係者全員が初めて顔を合わせ、全体計画を共有します。この段階でプロジェクトが本格始動します。
4	2025 年9月～12月	●代替案作成と月次議論の進行 ファシリテーターの主導で、月次会議を通じて代替案を具体化します。議論を深めることで、建設的な解決策を導き出します。
5	2026 年1月～3月	●実証実験のための代替案の検討と修正 月次議論での成果をもとに、実証実験のための最終案を調整します。意見を集約し、関係者間の合意形成を進めます。
6	2026 年 4 月～5 月	●実証実験準備(環境整備と住民調整) 実証実験に向けた準備期間です。対象エリアを選定し、住民との調整や必要な設備の整備を行います。
7	2026 年 6 月～11 月	●実証実験の実施とデータ収集 実際の運用を試行する期間です。実験を通じて得られるデータを分析し、課題を明確化します。
8	2026 年 12 月	●実証結果の評価と次段階への準備 実験結果をもとに評価を行い、改善案を検討します。次年度に向けた具体的なアクションプランを策定します。
9	2027 年 1 月～3 月	●実証実験を踏まえた代替案の作成とゴミパイプライン協議会での承認 実証結果を反映した住宅形態別代替案をそれぞれ3 案作成し、ゴミパイプライン協議会で承認します。

8. 2025 年度パイプラインの補修計画

輸送管補修状況計画-2025 年度(修正版)

作成:2025 年 5 月 16 日作成

No	穴あき場所(町名)		発見月	現状	仮補修 (水中ボンド)	補修状況		
						補修		
						内張	外当て	輸送管交換
23	I 系幹線	浜風町 31 (地図②①)	R6	穴あき	○			
24	I-#300	新浜町 4 (地図②②)	R6	穴あき				○
25	II-#500	高浜町 2 (地図②③)	R4	ピンホール腐食				○
26	II-#600	浜風町 15 (地図②④)	R6	穴あき				○
27	II-#800	若葉町 5 (地図②⑤)	R6	内張り破損		○		○
28	II-#800	若葉町 5 (地図②⑥)	R6	穴あき			○	○
29	II-#800	若葉町 4 (地図②⑦)	R6	ピンホール		○		
30	II-#800	若葉町 7 (地図②⑧)	R7	穴あき				○

9. 4月のワーキング・グループの報告

1. パイプラインの運転停止報告

若葉町7番(4/14～5/6)、若葉町6番(4/22～5/6)、高浜町2番(5/6～5/19)

【 概 要 】

1. 運転停止期間

芦屋浜地区西 #08069、#08079:【若葉町7】

4月14日(月)～5月6日(火) … 輸送管内のごみ堆積の影響

芦屋浜地区西 #08049、#08059:【若葉町6】

4月22日(火)～5月6日(火) … 輸送管内のごみ堆積の影響

2. 運転停止原因

投入口から投入されたごみが輸送管内に堆積し、収集運転不可

取り出したごみ: リュックサック、時計、フィン(足ひれ)、雑誌類、衣類、
ブルーシート、フライパン、花瓶、玩具等

3. 作業内容

4/22(火)、5/2(金)、5/3(土)

カメラ調査・管内洗浄・排水作業実施

4. 対応等

若葉町6及び7

臨時収集開始まで投入口横扉よりごみ抜き取り

(#08069のみ他投入口へごみを投入のご案内)

啓発チラシ・掲示物設置

臨時収集用ネット・コーン・ごみカート設置

(設置日: 若葉町6 4/24、5/1に2台追加、カート蓋設置 ・ 若葉町7 4/17)

輸送管管内洗浄等実施

5. 発生費用

輸送管 管内洗浄・排水作業・カメラ調査実施に関する費用
(緊急対応費)

作業写真



輸送管内写真

II-C-3点検口下流側 4/15撮影



取り出したごみ



II-C-2～II-C-3輸送管内より取り出したごみ
5/3撮影

玩具(プレイステーション、幼児玩具)、
#08079 投入



10. 代替案の検討—高層住宅の課題



1. 世帯規模と構成

- 分譲マンション 5 団地・計 1,215 世帯(全体の約 37 %)。
- 賃貸マンション 2 カテゴリ・計 2,100 世帯(約 63 %)で、うち約半数が県住宅供給公社、残りが UR。
- 総世帯数は **3,315 世帯** と大規模で、単一の処理方式では対応が難しい多様性を示す。

2. 住民組織の多層性

- 分譲はすべて管理組合を設置し、合意形成プロセスが比較的整備されている。
- 県住宅供給公社系は自治会中心で組織力にばらつきがあり、1 棟で組織不明(若葉町 4 番-1)が存在。
- UR 団地は フォーマルな住民組織がなく、行政と UR による直接的な関与が不可欠。
- 意思決定の速度・透明性が団地ごとに大きく異なることが、ごみステーション設計の前提条件となる。

3. 投入口(パイプライン)配置

- 分譲 13 か所、賃貸 20 か所以上に散在し、投入口 1 か所あたりの世帯負担が平均 100 世帯を超える棟も存在。
- 世帯密度の高い UR・公社系では投入口不足が顕著で、既存インフラの延命より代替案導入が現実的。

4. 高層住宅群の課題と示唆(所見)

- 組織格差:UR 棟の“無組織状態”は分別徹底や火災リスク対策のボトルネック。行政主導で代弁者(UR・県)を明確にする必要がある。
- 設備負荷:総世帯に対する投入口数が不足しており、現状は毎日捨てることが可能なので、問題はなしが、週 2～3回の収集となると大型化または収集頻度増のいずれかを選択する局面にある。
- 合意形成:分譲・公社・UR の三層モデルに応じた説明資料・経費負担スキームを別建てで用意しないと、導入決定が長期化する懸念が高い。

●分譲マンション

	名称	住所	世帯数	階数	組織	投入口
1	アステム A・B 棟	若葉町2番—1	184	29 階	管理組合	09019
		若葉町2番—2	133	19 階		09029
2	アステム C 棟	高浜町7番—1	98	29 階	管理組合	07019
3	アステム D 棟	高浜町3番—1	184	29 階	管理組合	05049
4	第1住宅	高浜町9番—1	150	24 階	管理組合	04029
		高浜町9番—2	150	24 階		04019
5	第 2 住宅	若葉町6番—1	150	24階	管理組合	08049
		若葉町6番—2	166	24階		08059

●賃貸マンション

	名称	住所	世帯数	階数	組織	投入口
1	兵庫県住宅供給 公社	高浜町5番—1	193	19	自治会	05029
		高浜町5番—2	116	19		05039
		高浜町8番—1	100	14	自治会	05019
		高浜町8番—2	99	14		04049
		高浜町8番—3	99	14		04039
		若葉町4番—1	102	19	?	08019
		若葉町4番—2	116	24		10019
		若葉町 7 番—1	99	14	?	10029
		若葉町 7 番—2	100	14		08069
		若葉町 7 番—3	99	14		08079
2	UR 賃貸住宅	若葉町5番—1	149	24	なし	08029
		若葉町5番—2	149	24		08039
		高浜町 2 番—1	148	19	なし	05059
		高浜町 2 番—2	133	24		05069
		高浜町 2 番—3	98	19		05079
		高浜町 4 番—1	167	24	なし	05089
		高浜町 4 番—2	133	24		05099

課題

1. 投入口不足

世帯数に対し投入口が少なく、700 ℓ 換算では 10 台超の代替ステーションが必要となる。

2. 収集回数とのトレードオフ

台数抑制には収集頻度を増やす等の平準化策を併せて検討する必要がある。

3. 設置スペースの制約

既存投入口周辺は複数台設置や収集車進入が困難。

4. 臨時収集場所の限界

原則臨時収集場所への設置を想定するが、10 台超を並べられる保証がない。各現場で確認し、それぞれの組織と調整が必要となる。

5. 搬出距離の問題

各階には EV がなく階段を下りる必要があり、更に臨時収集場所が遠い住棟があり、高層階からのごみ出しは、住民負担軽減策が必要。

6. 大型ステーションの必要性

上記制約を踏まえ、700 ℓ より大容量のステーションが現実的。

7. 垂直輸送管との整合

各高層住宅が所有する既設の高層階輸送管をどのように主文するかまたはどのように再利用するか終端処理方式を決定する必要がある。

8. 防雨・景観対策

代替ステーションにも投入口同等以上の防雨・美観対策を講じるか検討が必要。

9. 夜間安全対策

十分な照度を確保する夜間照明(センサー・太陽光併用)の設置が不可欠。



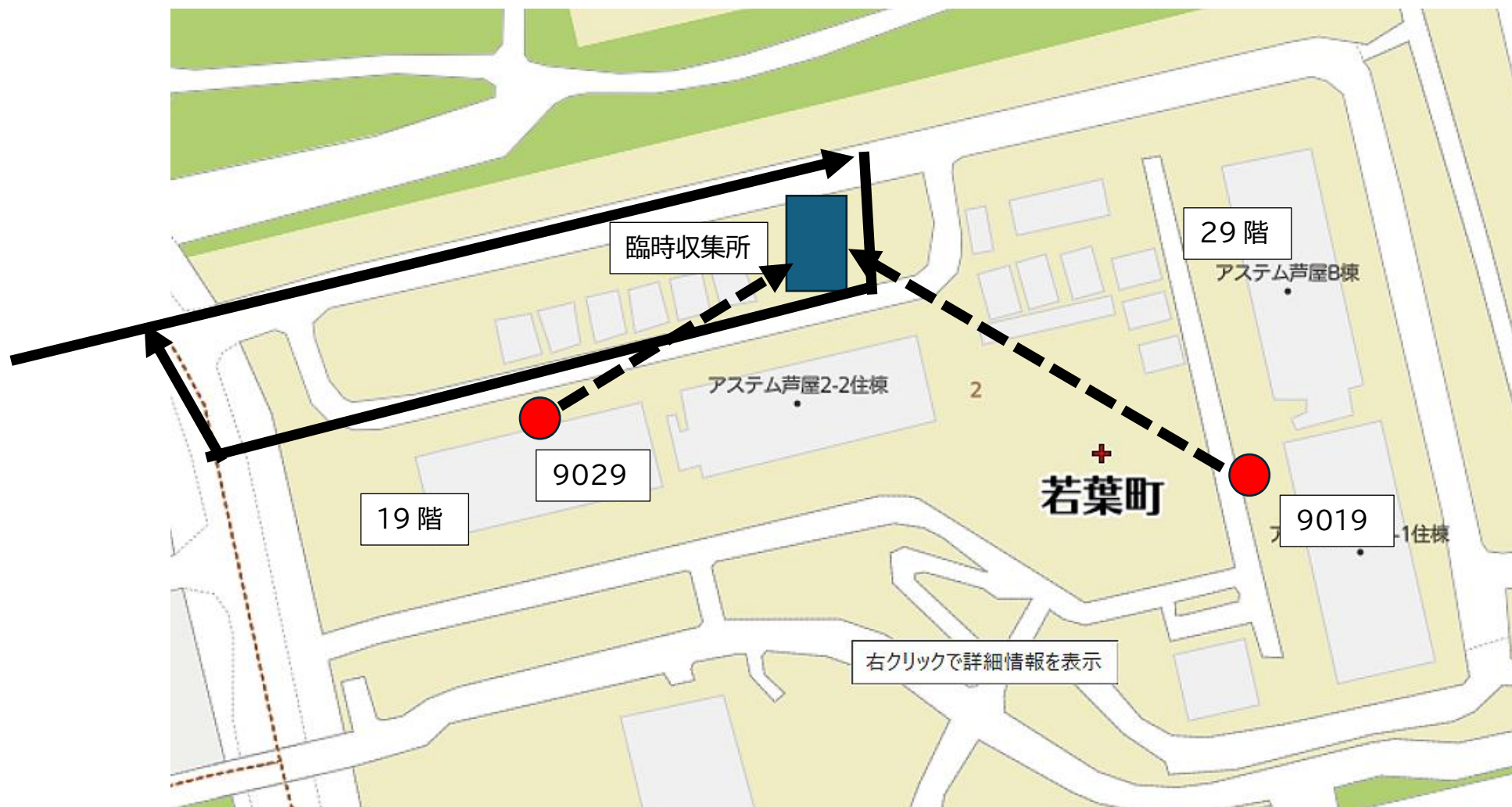
投入口調査票—住宅形態(高層・中層・タウンハウス・戸建て)

チェック項目		内容	
1	投入口番号(調査日)	09019(2025 年 4 月 29 日)	
2	写真(現在) 	当該投入口は、アステム芦屋 B 棟のエントランスに向かって右側に位置しており、狭い道路に近接しています。設置場所には、雨よけの天井もあります。敷地は一定の広さがありますが、ごみ容量を考慮すると、実際の配置に際しては敷地の寸法・形状など、設置に必要な広さを再度確認する必要があります。敷地内の狭い道路なのでごみ収集車の侵入に関しては、管理組合の許可が必要です。	
3	住所	若葉町 2-1(エントランス横に投入口が設置) 7 階、12 階、17 階、22 階、27 階に各投入口がある	
4	数値データ 基準 700ℓ カート(0.7 m ³ ×1台)	投入口容量(m ³)	1.5
		人口(世帯数)	379人(184世帯)
		1 日ごみ重量(kg/人・日)	159.2
		プラ分別した場合(kg/人・日)	135.32
		1 日ごみ体積(m ³ /日)	1.476
		余裕を見込む(m ³ /日)	2.140
		1 週間のごみ量(m ³ /週)	15.0
		週 2 回収集(m ³ /回)	×(11 台)
	週 3 回収集(m ³ ×回)	×(8 台)	
5	収集回数(計測値)	週2回(700ℓカート×11台設置)なので大型ステーションを設置するか、または収集回数を多くする。	
6	代替ステーション場所	○あり(私有地-9029 と統合になる)	
7	収集のしやすさ	パッカー車の横付け可能	
8	代替ステーション容量	要検討	
9	他ごみの場所の一体化	統合可能性確認	
10	プラスチックごみ回収	代替ステーションの内部を仕切る	
11	解決すべき課題 	ごみステーションに統合は要確認	
		ごみステーションの大きさと収集回数	
		高層階からのごみ破棄の移動距離(高齢者対策)	
		雨天対策	
		景観、におい・カラス・飛散対策	
		管理ルールが必要	
		土地は区分所有者	
12	プラスチックごみ回収場所	新ごみステーションまたは他ごみの収集場所	
13	水害・台風等の対策	1m の高潮に対応できるもの	

18P

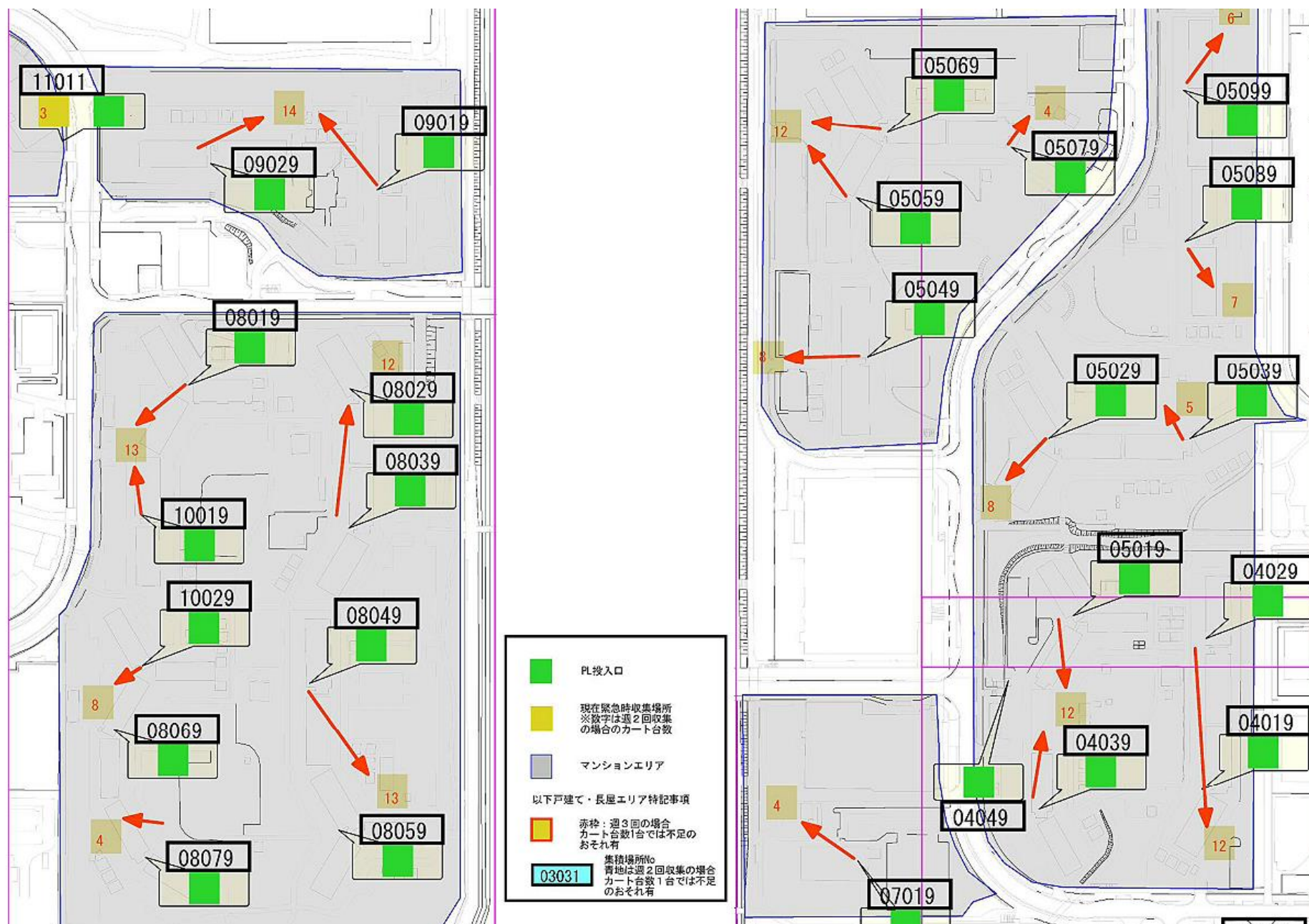
MAP

現在の投入口の設置場所には、多くのカートを設置することはできませんので臨時収集場所を検討する必要があります。



24階

参考:高層住宅の投入口設置地図



代替事例(高層住宅)

	検討項目	A 案	B 案	C 案	D 案
1	代替案	大型ごみステーション	ダストドラム(ごみ貯留排出機)	ごみカート	オープンごみステーション
2	写真				
3	導入事例	多くの大型マンション	エスリード芦屋陽光町	西宮市マンション 等	芦屋市市営住宅
4	容量(3 日分)	○	○	△	○
5	高層階からの投入	×	○(伊丹方式)	×	×
6	におい・飛散対策	○	○	○	×
7	収集のしやすさ	△	○	△	△
8	安全性(危険物)	○	×	×	○
9	パッカー車の搬入	○	○	○	○
10	カラス対策	○	○	○	△
11	利用時間	24 時間 OR 決められた時間	24 時間	24 時間(満杯になるまで)	決められた時間
12	火災(不審火)対策	○	○	○	×
13	雨天対策	○	○	○	○
14	管理者の必要性	必要なし	必要	必要なし	必要なし
16	管理者の仕事	掃除等	カギの管理と掃除等	掃除等	掃除等
17	管理ルール作成	必要	必要	必要	必要
18	メンテナンス	掃除(管理組合・自治会)	機器メンテナンス(業者)	掃除(管理組合・自治会)	掃除(管理組合・自治会)
19	電源・水道	できれば(電灯・水道蛇口等)	必要(電源)	—	—
	費用	要調査	2000 万	20 万(1 台)	要調査
	寿命	40 年	20 年	10 年～20 年	?

